

あったのは地形の影響による台風風速場の局地性をよく表現できなかったこと、等々の点を指摘した。

### 3. 講演発表後の総括

各セッションごとに栗原氏、山中氏、石島がそれぞれ講演発表のまとめを行った。栗原氏は第1セッションで提起された台風に関する理論的研究の成果や意義や問題点などについて気象予報、気候変化および人間活動その他に関連した視点からまとめを行った。気象予報では、台風の上陸点・経路・鉛直シア・強度等の予測精度向上の緊急性、海岸地帯のみならず内陸地まで強風や降雨の予測が必要なこと、過剰な警報の弊害、台風挙動の地球温暖化や異常気象発現等への依存性、などについて総括した。山中氏は第2セッションの発表や議論を踏まえて、次のように述べた。気象観測技術は今日までかなりのレベルに近代化されてきた。特に、VHF/UHF レーダーあるいはプロファイラーが台風の内部構造や地形影響による構造変化等の観測に十分機能するというコンセンサスが得られてきた。今後は、さらに有効な情報を引き出すために、入手されたデータの交換利用を促進するネットワークづくりが必要である。第3セッションを総括して、石島はフィリピンの台風襲来と被害損失の傾向、南シナ海の波浪の予報の向上、経済損失高軽減にむけての台風

襲来度数の長期予想技術開発への挑戦、日本における予期せぬ高潮災害をとりあげた講演発表があったこと、社会経済活動と関連して台風が惹起する問題は多種多様であり、その対応がせまられるであろうと締めくくった。

本シンポジウムは、石島が2000年日本気象学会秋季大会で発表した「沖縄台風センター構想」を推進する事業の1つとして、琉球大学とくに理学部・工学部が主体となって、東京大学気候システム研究センターおよび京都大学宙空電波科学研究所、日本気象学会沖縄支部、通信総合研究所沖縄亜熱帯計測技術センターおよび主に地元の民間産業団体支援のもとに、石島を委員長、住 明正（東京大学気候システム研究センター長）、深尾昌一郎（京都大学宙空電波科学研究所長）、小賀百樹（琉球大学理学部助教授）、屋良秀夫（琉球大学工学部教授・元琉球大学地域共同研究センター長）、日野 修（日本気象学会沖縄支部理事）、稲垣純一（国際電子ビジネス専門学校長）の各氏を委員とする実行委員会を設置して実施した。

### 参 考 文 献

石島 英, 河辺照之, 1995: ファジイ推測による台風発生数の予測, 第11回ファジイ講演会予稿集, 日本ファジイ学会, 15-16.

## 第32期役員候補者選挙投票のお願い

日本気象学会第32期役員候補者選挙の投票締め切りは3月11日(月)必着です。郵送または投票箱に投函願います。詳しくは、投票用紙と一緒に送付された「投票についての注意事項」をご覧ください。

なお、投票用紙が2月17日までに未着の方は、至急

選挙管理委員会事務局までお知らせください。

日本気象学会選挙管理委員会事務局  
気象庁予報部数値予報課内  
TEL: 03-3212-8341 (内線3322)

## 第32期役員選挙管理委員会からの訂正とお詫び

1. 日本気象学会第32期役員候補者選挙の選挙広報(立候補者名簿および所信などを含む)において「全国区・理事」に立候補された新野 宏氏の所信の表記に以下の誤りがありました。

3ページの右段の下から14行目と下から10行目の「機関紙」は「機関誌」に、同ページ右段の下から10行目の「官員」は「会員」に訂正します。

新野 宏氏に大変なご迷惑をおかけしたことを深

くお詫び申し上げます。

2. 「投票についての注意事項」及び「投票用紙」に「所属地区(支部)は会員宛封筒ラベルに記載してあります。」と明記してありますが、事務局のミスで会員宛封筒ラベルに記載がもれてしまいました。誠に申し訳ありませんが、注意事項の1.(2)を参照のうえ所属地区(支部)のご記入をお願いします。